

D.O.D. フィッシングフローター FF-2 取扱・組立て説明書



注意

本説明書をよくお読みの上、ご使用ください。

誤った使用は事故や怪我につながる恐れがあります。

<http://www.be-s.co.jp/>

■ご使用前に

本製品を使用する前日に、付属のポンプで本製品に空気を注入してそのまま1日放置し、空気漏れがないか確認してください。 ※空気漏れの確認は使用する都度、毎回行ってください。

ーお取扱い上のご注意ー

- 本製品は救命具ではありません。沖合や岩場など危険なところでの使用は避け、遊泳場等の安全な所でご使用ください。
- 風の強いときは使用しないでください。風や波に流され危険です。
- 入水や立ち座りは慎重に行ってください。バランスをくずし転覆するおそれがあります。
- 足場の良い遠浅な場所で、湖底の様子を確認しながら、すり足で入水してください。
- 本製品の定員は1名です。2名以上で使用しないでください。
- 荷物などを乗せないでください。
- 本製品はおもちゃではありません。お子様はご使用しないでください。
- 泳げない方はご使用しないでください。
- アルコールや薬などを飲んだ場合や体調の悪い方、けがをされている方はご使用しないでください。
- 空気の入れすぎは破損の原因になります。外周部にシワが少し残るくらいが適量です。
- 炎天下や車内に長時間置くと空気の膨張により気室内圧が上昇し、破裂する可能性がございます。暫く使用しないときは空気を抜くなど、本体の圧力状態には十分注意し、涼しい日陰に置いてください。
- 空気注入の際は必ず付属のポンプを使用してください。本体の各空気室を手で触れて、入り具合を確かめながら注入してください。
- 本体の空気注入口は栓と弁の二重構造になっていますが、弁は空気の急激な漏れを防ぐ補助弁で、空気を完全に止めるものではありません。必ず栓をしっかり差し込んでご使用ください。
- 安全のため、ライフベスト等救命具を着用の上ご使用ください。
- いずれかの部品が破損した場合、また異常を感じた場合はただちに使用を中止してください。
- ポンプ付属のノズルの内、バルブに合った正しいサイズのものをお使いください。
- ポンプを連続で使用する場合は、最長で30分を目安としてください。それ以上使用を続ける場合は、10分間運転を停止した後に再度使用を再開してください。
- 湿気が多い場所、水のかかる場所でのポンプの使用はお止めください。ショートの原因となります。
- ポンプを分解、改造しないでください。

一 禁止事項 一

■釘やくい、砂利、貝殻、ガラス片、金属片、木片、等、とがったものとの接触。

■たばこや火気に近づける事。

■雨、強風、等悪天候の場合や夜間の使用。

■急流での川下り、岩場、座礁する危険性のある場所、寒冷地、波の高い場所、などでの使用。

■高圧ポンプや、自動車の排気ガスの使用。

■口での空気注入。

■車内、直射日光の当たるなど、高温になる場所での放置。

※廃棄上の注意：廃棄の際は各地方自治体の廃棄区分に従ってください。

※保管上の注意：ご使用後は空気を完全に抜き、真水で汚れを落とし、陰干して湿気の少ない冷暗所に保管してください。

また、本製品に対してベンジン・シンナー等揮発性のものを使用しないでください。

組み立ててみましょう

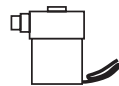
1. まずは梱包内容をご確認ください。本製品には、フィッシングフローター本体、エプロン、フロントバー一式、クッション、DC12V 電動ポンプ、リペアキット、説明書（本書）が含まれます。※ 梱包内容に不足・破損がある場合は、弊社までご連絡ください。

※画像には同型同種のフローターを使用しているため、お手元フローターとは細部が異なる場合がございます。

<各部の名称>



<他付属品>



DC12V電動ポンプ



リペアキット

2. 付属の電動ポンプでフィッシングフローター本体に空気を注入します。空気注入口は本体右側に1箇所、本体背もたれ部に1箇所（本体とは別の構造物となっています）あります。右側小物入れ、背もたれ上部のジッパーを開け、空気を注入してください。空気注入の際には空気注入口に合ったノズルをご使用ください。

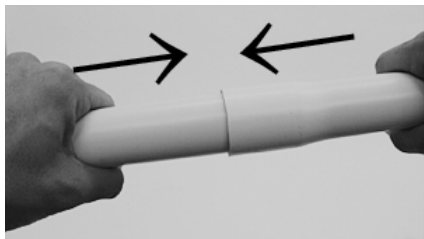
※空気は入れすぎにご注意ください。手で押して少し余裕があるくらいが最適です。また、空気栓は、空気が漏れないようしっかりと閉めてください。

空気の注入が完了したら、本体の組み立ては完成です。各部分がしっかり取り付けられているか、空気漏れが無いのか、再度確認の上ご使用ください。

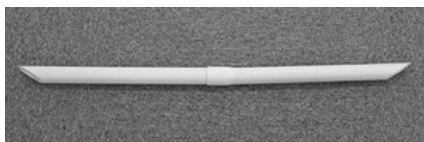


※本体左右の空気注入口（スクリーバルブ）は栓と弁の二重構造になっていますが、弁は空気の急激な漏れを防ぐ補助弁で、空気を完全に止めるものではありません。必ず栓と蓋をしっかりとねじ込んでください。

3. フロントエプロンを組立て、フローター本体に取り付けます。下記に手順を解説します。



3-1. フロントバーは2分割されており、分割されたフロントバーを接続します。垂直な断面同士を組み合わせます。



3-2. 上の画像のような状態に角度を合わせます。
※フロントバー両端は、性質上鋭利にカットされています。取り扱いには十分にご注意ください。



3-3. エプロンを裏返し、フロントバーを挿入するための差込口を開きます（エプロンを裏返したとき、左手側にあります。右手側は開閉しません）。この差込口のマジックテープを開き、エプロンにフロントバーを挿入します。エプロンの反対側の端にフロントバーが当たるまで奥へ差し込み、フロントバーが露出しないように差し込み口のフラップにフロントバーを差し込みます。



3-4. フローター本体へ、フロントバーを挿入したエプロンを取り付けます。フローター前部左右には、フロントバー差込口が設けられています。使用中に外れないよう、しっかりと差し込んでください。



3-5. エプロンを取り付けた後、バックル(①、②、③)を接続します。特にバックル③は、エプロンと、フローターに装着されたシートとを繋ぎ、乗員が落下するのを防ぐため非常に重要な部分です。④⑤はマジックテープ、⑥⑦はゴム製のコード先端に取り付けられたフックを使用してフローター本体へ取り付けます。最後に、フローター本体とエプロンが正しく固定されているか、再度確認してください。

4. クッションを取り付けます。クッションは使用状況等に応じて取り外しが可能です。



クッション前面には空気注入口があります。入れすぎに注意しながら、クッションの高さが最適となるように空気を注入してください。空気を注入し終わったら、フローター本体とクッションを固定します。固定はフローター側、クッション側に設けられたそれぞれ4個のバックルを使用します。

クッションを取り付け終わったら、すべての組み立ては終了です。安全な釣行をお楽しみください。